



仁淀病院からのお知らせ

新仁淀病院に向けて



仁淀病院 院長 松浦喜美夫

仁淀病院では昨年の秋から改築工事が進んでおり、来年春には新しい病院が出来上がります。

私たちは「いの町」における地域医療とは「27,000人の町民の健康にかかわる全てをカバーする医療」と捉えています。仁淀病院が、医療はもとより町民の健康を守るという視点から、予防や介護・福祉に至るまでの相談窓口とその解決に対して、町民全体からの信頼と安心を得る機能であることが必要だと思います。これは町民が常に相談ができたり、仁淀病院を中心に行政や高度急性期病院、病院・診療所や介護施設、老健・特養・グループホームなどとの連携がはっきりと意識できたりすることで、町内で自分らしく暮らしていき、地域で治療・療養を安心して受けられることであろうと思います。私たちは、このような仁淀病院を目指しています。

新しい病院では、立体画像を安易に作成できるマルチスライスCTなどの最先端医療機器の導入や、鳥インフルエンザなどに対応する感染症病室の設置、予防医学、がん検診などの健診機能の強化など、施設面の病院機能のさらなる向上を目指します。IT化によるオーダーリングシステムの導入、レントゲンの医療情報の電子化などによるコスト削減、エネルギー源のオール電化などの環境負荷の軽減も図ります。建物など施設以外にも病院機能面

での向上を目指し、良質な医療提供を推進し確保していくために、日本医療機能評価機構による病院評価を受けて、医療施設としての提供体制の充実を図ります。

また仁淀病院は高知西地区の災害支援病院に指定されており、新病院では災害支援病院としての機能を整備強化します。近い将来予測される東南海地震の災害対策の一環として、地震の揺れを吸収する装置を組み込み、建物の破壊を防ぐ免震構造を採用しています。震度6強程度の地震でも、診療などの病院機能の保持が可能で、災害後3日間の水などの備蓄も可能なように設計されており、大規模な地震時にも地域の方の生命を守る対応をしています。

さらに、地域での災害対策として平成20年から、高知DMA T (Disaster Medical Assistance Team: 災害派遣医療チーム) 研修に参加し、2つのチームが高知DMA Tの認定を受けました。DMA Tとは列車事故やビル火災などの地域の災害発生時に、いち早く現場に駆けつけ、消防隊と協力しながら救命医療を提供する医療チームのことで、医師1名と看護師2名と一般職員1名がチーム編成して、災害発生時の訓練などを行い対応に備えています。このようにして町民が地域で安心して暮らせるように、公的病院の役割を果たしたいと考えております。

